

学位被授与者氏名	木下 実香 (きのした みか)
論文題目	「夢追い型フリーター芸能指向型に関する研究 ーバンドマンはなぜフリーターでバンドを続けることを選ぶのかー」
論文審査結果の要旨	<p>本論文においてプラスに評価できるのは以下の点である。</p> <p>①若者がフリーターとなっていくメカニズムについて、経済構造的要因、文化的要因、生活構造的要因といった面から、重層的に先行研究の整理を行っていること。</p> <p>②必ずしもアクセスが容易ではないと思われる対象者（バンドマン）19名に対してライフストーリーのインタビューを行い、文字おこしを行ったこと。また、インタビューと平行してライブハウスでの観察を行うなど、丹念に時間をかけて調査に取り組んだこと。</p> <p>③十分とは言えないものの、マクロレベルの社会・経済構造的要因とミクロレベルのフリーター&amp;バンドマン選択といった行為とを媒介する、メゾレベルでの生活構造的要因に注目して語りの解釈を行おうとしていること。</p> <p>その一方で、以下のような課題が指摘された。</p> <p>①対象者が若者であるため、ある意味当然なのかもしれないが、ライフストーリーの分析といった視点が弱い。親の状況（生活状況）、幼少期、小学校、中学校での社会関係など、人生の履歴の効果を分析しているというよりも、現時点での状況の記述となっている感が強い。</p> <p>②語りの解釈の妥当性にやや疑問が残る。フリーター（バンドマン）を選択する要因としてあげられている項目と、その根拠となる「語り」とが必ずしも一致していないように思われる箇所がある。（たとえば、p.17のケースRやケースEの語りは「家庭の経済状態」の悪さを示すほどのものなのか。また、p.21 ケースW、ケースLは「伝達における課題」の語りなのか。また、そもそもフリーターを選択させてしまう「伝達における課題」とはどのようなことなのか。）</p> <p>③先行研究の検討とインタビューの解釈との適合性の問題。たとえば、「親の就業意識の低さ」「伝達における課題」は「家庭の経済状況」と関連があるのではないかと。また、本人の「低い学習意識」の背後には、親の「学習意識」だけではなく、「家庭の経済状況」「親の職業意識」「下位文化」などの要因も考えられる。先行研究の検討では、そうした重層的な規定関係が、それなりに整理されているが、そうした知見が「語り」の解釈に十分には生かされていない印象を受ける。経済や文化といった構造的要因（マクロ）、友人との交友関係やその中での下位文化・規範、生活時間のパターンといった生活構造的要因（メゾ）、本人のフリーター・バンドマン選択といった行為（ミクロ）をつないでいくような分析（解釈）がもう少し明確であればよかった。（レベルの異なる各要因間のつながりを、先行研究の知見などを踏まえながらつないでいくような記述がなければ、たとえば「家庭の経済状況」がなぜ「フリーター選択」の要因となるのかが理解しづらい。）</p> <p>④フリーターでバンド活動を続けることの意味は（単に非正規雇用につくチャンスを制限するといったことだけではなく）もう少し多面的なのではないか。</p> <p>⑤その他、誤字脱字が散見される等、形式的な課題も指摘された。</p>

	<p>2019（平成 31）年 2 月 19 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 4-301 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（人間関係学）として十分な内容であると判定した。</p>
--	---